

9 鑑別するのが難しかった遷延する黄疸の1例

横田 直樹・杉谷 想一・幸田陽次郎
罇 陽介・大関 康志・藤原 真一
小林 由夏・飯利 孝雄 野本 実*

立川総合病院消化器内科
新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器内科学分野*

症例は、39歳、男性。主訴は心窩部痛、嘔吐。入院1ヶ月前より発熱や腹痛があったが、近医にて対症的な処方を受け、改善していた。しかし、入院日の朝より前述の主訴を認め、採血にて肝機能・胆道系酵素の上昇を認め、当科に紹介入院。皮膚、結膜に黄疸あり、心窩部から右季肋部に圧痛を認めた。採血では、B・C陰性。画像上、胆のう内と総胆管に結石あり。禁食、補液、薬剤の中止を行い、さらに、ESTも施行した。しかし、GPTは改善したが、総ビリルビンは上昇を続けた。追加検査にて、ANA陰性、各種ウイルスマーカーに所見なし。よって、ANA陰性のAIHもしくは薬物性肝障害と考えられた。その後、ステロイドパルス施行し、総ビリルビンの値も回復に向かった。肝生検も行ったところ、薬物性肝障害の病理所見が得られた。胆石・胆のう炎の合併により、診断困難な例であった。

10 血清CEA高値を呈し、広範な門脈ガス血症をきたした壊死型虚血性腸炎の1剖検例

吉岡 大志・窪田 智之・阿部 寛幸
長島 藍子・廣瀬 奏恵・富樫 忠之
石川 達・関 慶一・本間 照
吉田 俊明・石原 法子*

済生会新潟第二病院消化器内科
同 病理診断科*

11 IgM-HBc抗体陽性(交叉反応)を示し、著明な肝機能障害を呈したEBウイルスによる伝染性単核球症の1例

～過去5年間の当院におけるEBウイルス感染による肝障害の実態～

窪田 智之・堀米 亮子・阿部 寛幸
長島 藍子・廣瀬 奏恵・富樫 忠之
石川 達・関 慶一・本間 照
吉田 俊明・廣川 徹*・大久保総一郎*
平野 春伸*・石原 法子**・中塚由美子***

済生会新潟第二病院消化器内科
同 小児科*
同 病理診断科**
亀田第一病院消化器内科***

12 肝臓病診療においてチーム医療としての肝臓病教室から得られるアウトカムの期待と展望 —肝臓癌撲滅を目指して—

阿部 弘子¹⁾・小山富士子¹⁾・中野ともみ¹⁾
植木 文¹⁾・中山 陽子¹⁾
長谷川江梨名¹⁾・野口 博人¹⁾
石川 達²⁾・深澤 尚子³⁾・鈴木 光幸⁴⁾
丸山 由華⁵⁾

済生会新潟第二病院看護部¹⁾
同 消化器内科²⁾
同 栄養課³⁾
同 薬剤部⁴⁾
同 事務部⁵⁾

13 飲酒性・非飲酒性脂肪肝とメタボリックシンドロームとの関連に関する疫学調査

窪田 智之・石川 達・阿部 寛幸
長島 藍子・廣瀬 奏恵・富樫 忠之
関 慶一・本間 照・吉田 俊明
須田 陽子*・佐藤 良一*

済生会新潟第二病院消化器内科
同 健康検診科*